

八峰白神ジオの恵みプロダクトの紹介

八峰白神ジオパークでは、10月より八峰町ならではの食の魅力を紹介する「ジオの恵みプロダクト」を開始しました。参加していただいた商品を紹介します。

【はたはたずし】



代表取締役 鈴木 勇 さん

はたはたずしのふるさと、秋田県の八峰町で手間と愛情をこめてつくりました。100%八峰町産あきたこまち米使用。ワサビ、お醤油、マヨネーズ等、お好みの味で美味しくお召し上がりいただけます。

株式会社 鈴木水産
住所 八峰町八森字磯村72-3
電話 0120-022-170



今後も八峰白神ジオの恵みプロダクトを募集します。詳細はお問い合わせください。

■問合せ先 八峰白神ジオパーク推進協議会事務局
☎ 0185-76-4605 FAX 0185-76-2203



八峰白神ジオパーク

連載 117回



事務局 八峰町産業振興課 ジオパーク推進係
☎ 0185 (76) 4605 FAX 0185 (76) 2203
HP <http://www.shirakami.or.jp/~happo-sh-geo/>



果じゅ実

白神山地の恵みに生きる

ジオパークには欠かせない大地で暮らす人々
地域の人話を聞いて、大地と人のつながりを考えます

毎朝、そばを食べて出来具合を確かめます



自慢のそば畑にて

話をしてくれた人

富士 正信 ふくしまさのぶ さん
昭和30年、石川生まれ。父親の跡を継いで、田んぼやそば畑の農家になって15年。ストレス解消法は酒を飲むこと。孫が5人。

○生い立ちと子どもの頃の話

生まれは石川の中心から2kmほど東にあった夏井という集落です。昔の除雪車は大きくて小回りが利かず、整備もされていない集落の道路は除雪に時間がかかったりとか、後回しにされたりして冬は本当に大変でした。だから、みんなおいおい石川の方に引っ越してきました。軒数が減ってきて、さらに除雪がはかどらなくて。その後、火災があったこともあり、私の家も引っ越すことになりました。

そば作りは子どもの頃から手伝いをしていましたが、昔は全部手作業でした。刈り取りの時期になれば鎌で刈って、それを束ねて畑で乾燥させて、持ち帰って。それから手作業でこねて、包丁で切って麺にしていました。家族総出でした。今は全部機械でやります。ただ、粉をひく機械だけは昔からありましたけどね。

○300年以上続く石川そば

石川では江戸時代からそばをやっていました。竹原神社という馬を祀る神社があります。この地域では農耕馬をとて大事にしていました。江戸時代にはお盆に馬の祭りをやる風習があって、東北各地から人が集まってきていました。ある年、凶作で主食の米がとれなくて困っていた時に、石川で作っていたそばを祭りの参加者にごちそうしました。するとすごく好評で、それからそばを大々的につくるようになったそうです。

石川そばには昔から豆乳を入れるのが特徴です。ただ、粉をひくときの目の粗さや小麦粉の分量は家によって違います。私は二八の分量でやっています。小麦粉がなんぼか入らないと硬いし短く切れてしまうから。

○そばづくり

今はちょうど秋そばの収穫の時期。作ったそばは必ず毎朝食べて出来具合を確かめます。そばだけでなく作物はみんなそうだけど、水に弱いから排水には気をつけねば実が成りません。あとは、収穫の時期に雨や風が続けば実がこぼれてしまいます。今年は雨のせいで収穫が遅れていて、もう雪が降ってくるんじゃないかって。

20年くらい前までは、石川ではほとんどの家で年越しそばを作っていたんだけど、今はかなり少なくなりました。作ったそばは親戚に配ると、スーパーや道の駅の予約の分で満杯になってしまって。体の続く限りはやりたいもんだなと思っています。私のそばは道の駅みねはまのレストランはっぼうで食べることができますのでぜひご賞味ください。



葉が落ちて、実が黒くなってきたら収穫です。写真は10月5日に撮影。

CSレター

コミュニティ・スクールからこんにちは



CSディレクターの工藤です。
あつという間に11月になりました。早いですねー。
今年もハタハタが来てくれると良いのですが。

10月21日(水)、コミュニティ・スクールの第2回学校運営協議会で、学校運営の中間報告がありました。各学校とも、コロナ禍により例年どおりの行事ができない中で、「今できる事をやろう」と地域に目を向けた学習等に積極的に取り組んでいました。

八森小学校では、各学年での八峰白神ジオパークの学習と、体力づくり・健康づくりの取り組みに力を入れています。峰浜小学校では、ふるさとに根差したキャリア教育として、3年生は梨、4年生はラベンダー、5年生は米、6年生はソバの学習を充実させています。

八峰中学校では、全学年での八峰白神ジオサイト体験学習、2年生の町特産品販売、3年生のオリジナル商品開発と販売、全校での地区奉仕活動、毎月8のつく日の『八峰あったかおもいやりデー』等に取り組んでいます。

また、コロナ禍においても、中学校ではICTを活用して授業や行事を乗り切っていること、小学校では6年生がリーダーとして成長している等の報告がありました。

司会の佐藤委員から、「コロナ禍で、学校も難儀と工夫を強いられているが、思いがけず良い面も確認できたのではないかと。ここ1、2年、世の中も、学校も変化が求められるかもしれないが、『災い転じて福となす』という気持ちを持ってほしい」との発言がありました。そのとおりだと思います。



八森小 マラソン・リレー大会



峰浜小 ソバの収穫体験



八峰中 町特産品販売の戦略会議